

地下鉄博物館所蔵の 「日本初の地下鉄車両 1001号車」が国の重要文化財指定へ 鉄道用電気車両（電車）としては初の指定に！

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）は、地下鉄博物館所蔵の「日本初の地下鉄車両 1001号車」が、2017年3月10日（金）付けで文化審議会から文部科学大臣に答申されたことを受け、国の重要文化財として指定される運びとなりましたことをお知らせします。

今回の答申においては、文化庁より、「1001号車は、①1927年12月30日、東京地下鉄道が東洋初の地下鉄として営業を開始した上野～浅草間2.2kmを走行した車両であり、その後1968年4月までの約40年間、一貫して、営団地下鉄（現在の東京メトロ）銀座線で活躍したこと。②全鋼製、自動扉、自動列車停止装置の採用などの防災・安全対策や、内装、照明、吊り手等の乗客向けの設備に地下鉄ゆえの特徴が見られ、我が国の地下鉄電車の嚆矢（こうし）であるとともに、後の地下鉄車両の規範となった車両であり、鉄道史、交通史上に重要であること」が評価されております。

なお、1001号車の重要文化財指定については、鉄道用電気車両（電車）としては初の指定であるとともに、東京メトログループの所有物においても初の指定となります。

東京メトロでは、1001号車が重要文化財に指定されることを深く受け止め、この車両を歴史的価値が高い文化財として、引き続き地下鉄博物館において保護活用に努めてまいります。

詳細は別紙のとおりです。



1001号車外観



1001号車内観

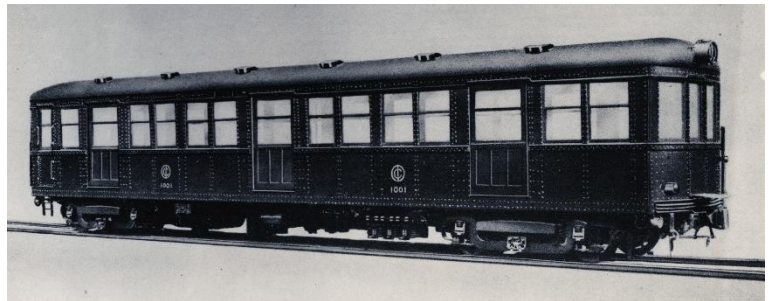
1001号車の概要

車両の主な特徴

- 車体は全鋼製（ドア・窓枠等一部を除く）
車体の難燃化を図るため、当時主流であった木製車両ではなく、鋼鉄が用いられました。
- 日本初！自動列車停止装置を装備
日本で初めて自動列車停止装置（打子式ATS）を搭載し、安全性の向上を図りました。
- 当時では珍しかったドアエンジンを搭載
当時鉄道省で試験されていた国産の自動戸閉装置を搭載し、全扉の開閉を自動化しました。
- 吊手はリコ式（スプリング式）を採用
使用しないときは、ばねで跳ね上がり、走行中に左右に揺れない構造のリコ式吊手を採用しました。
- 客室灯はおしゃれな間接照明を設置
地下空間という環境を考慮し、直接光が入っても眩しくなく、影が出来ないように間接照明を採用しました。

主な諸元

- 軌間 1,435mm
- 電気方式 直流600V
- 定員 120名
- 自重 34.8t
- 車体寸法 長さ 16,310mm
幅 2,593mm
高さ 3,495mm



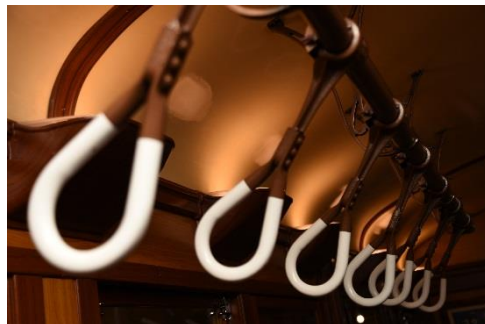
開業当時の1001号車（イラスト）

車歴

- 1927年 11月 日本車両製造で製造
- 1927年 12月30日 東京地下鉄道上野～浅草間で営業開始
- 1968年 4月 営業運転から引退
- 1969年 12月 展示のため営団地下鉄から交通博物館へ寄贈
- 1984年 5月15日 地下鉄博物館開館に伴い、交通博物館から地下鉄博物館を運営する財団法人地下鉄互助会（現在の公益財団法人メトロ文化財団）へ長期貸与される
- 1986年 7月12日 地下鉄博物館において展示開始
- 2009年 2月 平成20年度経済産業省近代化産業遺産に認定
- 2016年 12月5日 地下鉄博物館開館30周年を機に、東日本旅客鉄道から公益財団法人メトロ文化財団へ無償譲渡され、現在に至る



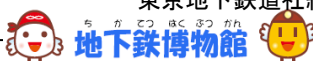
東京地下鉄道社紋



リコ式吊手と間接照明



予備灯とドア開閉スイッチ



- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 場所 | 〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-3-1 |
| 2 | アクセス | 東京メトロ東西線 葛西駅高架下 |
| 3 | 開館時間 | 10時～17時（入館は16時30分まで） |
| 4 | 休館日 | 毎週月曜日（祝日・振替休日となる場合はその翌日）
年末年始12月30日～1月3日 |
| 5 | 入館料 | おとな 210円 こども 100円（満4歳以上中学生まで） |
| 6 | 電話 | 03-3878-5011（10時～17時） |
| 7 | H P | http://www.chikahaku.jp/ |